

倫理 研究課題 <源流08>

教科書：p ~ 資料集：p ~ ノートp ~

●イエスの死と復活

①イエスの刑死

「神の国は近づいた」→ユダヤ民族のローマ帝国からの独立を望む一派から期待される

「福音を信ぜよ！」→しかしイエスは政治的独立をめざしたのではなかった。

律法学者（パリサイ派）から危険人物とされ、弟子ユダの裏切りにより逮捕される。

一番弟子ペテロらは「イエスなんて知らない！」と言って逃げ出す（これも裏切り）

イエスは孤立無援の中、「神を冒涇した」との理由で、エルサレムで十字架により刑死。

②復活と、キリスト教の誕生

聖書によると、刑死後3日目にイエスは弟子たちの間に「復活し、昇天した」。

→ペテロを中心に、イエス=キリスト（救世主メシア）とする「キリスト教」が誕生。

★イエスがいう「神の国」とは何だったのだろうか？

.....

★イエスが「復活し、昇天した」とは、どういう意味だろうか？

.....

.....

★左と右で関連のあるものを線で結んでみよう！

- | | |
|---------------|-------------------------|
| 自我のめざめと他者の発見・ | ・ 律法を守れない者をさげすむパリサイ派 |
| アイデンティティーの確立・ | ・ 律法主義と闘い、神の国の実現のために生きる |
| 権威主義的パーソナリティ・ | ・ すべての人が神に愛されている |

★キリスト教の「神を愛する態度」は、本来は「権威主義的服従」と異なる。どうして？

.....

.....

.....